

Osaka Slovakia Opera2018

「コンサートオペラ」は、よく知られているアリアを中心にストーリーを再構成したオペラのダイジェスト版です。最小限の小道具と、表現力豊かなピアノの伴奏により、ソリストたちの歌を最大限に堪能することができます。



第一部 コンサートオペラ「カルメン」

(ジョルジュ・ビゼー作曲 オペラ「カルメン」ダイジェスト版)

・キャスト

カルメン (タバコ工場で働くジプシーの女工)	ユディタ・アンジェロヴァー (メゾソプラノ)
ドン・ホセ (軍隊の衛兵)	ペテル・マリー (テノール)
ミカエラ (ホセの故郷の婚約者)	カタリーナ・プロハースコヴァー (ソプラノ)
エスカミーリョ (闘牛士)	シモン・スヴィトック (バリトン)

・あらすじ

時は 1820 年頃、スペインのセヴィリアの町。広場に建つタバコ工場で、妖艶なジプシーの女工カルメンが喧嘩騒ぎを起こし、同僚に怪我をさせます。町の若者すべてが彼女に憧れる中、一人だけ無関心を装う衛兵ドン・ホセに連行されます。しかしカルメンは、色仕掛けで彼を惑わせ、見逃してくれるように説き伏せます。その罪で二カ月の禁固刑に処せられてしまったホセは、出所すると、約束していた酒場で彼女と密会し、愛を告白します。カルメンは得意の情熱的な踊りと歌でホセを誘惑し、軍の点呼が聞こえてもホセの帰営を遮ります。結局彼は脱走兵の身となって、ジプシー仲間に加わり、いつの間にか彼らのやっている密輸に手を貸すこととなります。病気の母を案じて、己の挫折を後悔しますが、カルメンはそんな煮え切らない彼に興味を失い、心は華やかな闘牛士のエスカミーリョに移っていきます。そこへホセの婚約者ミカエラが、彼の母からの手紙を届けるために、険しい道を進んで彼のいる山にやってきます。ホセに母親が重病だと告げ、手紙を渡します。そこには、彼に会いたい、そしてミカエラと結婚してほしいと書かれています。ホセが故郷に帰ると、カルメンは彼の不在中にエスカミーリョと恋仲になります。やがてセヴィリアの町には闘牛の日がやってきます。大賑わいの中で、カルメンが晴れ姿のエスカミーリョに同伴し、彼に愛の言葉を浴びせて闘牛場に送り込みます。すると突然ホセが彼女の前に現れます。彼は復縁を迫りますが、カルメンは取り合わず、ついにはホセからもらった指輪を投げ捨てます。ホセはそれに激昂し、カルメンを刺し殺してしまいます。



第二部 オペレッタと歌曲の名曲

1. E. カールマン：「伯命令嬢マリツァ」、タシロの歌 D. シモ
2. F. レハール：「微笑みの国」、リーザの歌 H. ベチェ・サボー
3. E. カールマン：「チャールダーシュの女王」、 K. プロハースコヴァー、D. シモ
シルヴァとエドウィン の二重唱
4. F. レハール：「メリー・ウイドウ」、ハンナの歌 H. ベチェ・サボー
5. W. アファナシェフ：「Broken Vow」(破られた誓い) S. スヴィトック
6. E. カールマン：「伯命令嬢マリツァ」、マリツァとタシロの二重唱 H. ベチェ・サボー、D. シモ
7. F. レハール：「ジプシーの恋」、イロナのチャールダーシュ H. ベチェ・サボー
8. E. カールマン：「伯命令嬢マリツァ」、プスタの娘達 全員
9. イタリア歌曲：E. デ・クルティス「Non Ti Scordar Di Me」(忘れな草)··· D. シモ
10. A. ララ：「グラナダ」 S. スヴィトック
11. E. カールマン：「チャールダーシュの女王」、シルヴァの歌 H. ベチェ・サボー、K. プロハースコヴァー
12. G. ドゥシーク：「生まれ故郷の歌」 全員